

＜ 改善報告書検討結果（京都橘大学） ＞

[1] 概評

2009（平成 21）年度の本協会による大学評価に際し、問題点の指摘に関する助言として 9 点の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、これらの助言を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることが確認できる。

ただし、次に述べる取り組みの成果が十分に表れていない事項については、引き続き一層の努力が望まれる。

学生の受け入れについては、文学部日本語日本文学科における過去 5 年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が 1.24 と高い。また、文化政策学研究科博士前期課程の収容定員に対する在籍学生数比率が 0.20 と低いので、改善が望まれる。編入学の収容定員に対する編入学生数比率は、文学部日本語日本文学科で 0.60、現代ビジネス学部現代マネジメント学科および都市環境デザイン学科でそれぞれ 0.55 であり、改善に向かっているものの、一層の努力が望まれる。

また、点検・評価については、各学部・研究科に「自己点検・評価委員会」が設置されるなど、自己点検・評価の体制が整いつつあるものの、2013（平成 25）年度に点検・評価活動が開始されたばかりであるので、今後の組織的、継続的な実行努力が望まれる。

[2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし

以 上